

調査結果の概要及び今後の取組について

みなべ町教育委員会

平成31年4月18日に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要及び今後の取組について、お知らせいたします。

この調査は、小学6年生と中学3年生を対象とし、「教科に関する調査」について小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語を実施し（英語は今年度初めて実施）、また児童生徒の学習意欲や学習環境等を調査する「質問紙調査」も併せて実施いたしました。

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立て、さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目的とし、実施したものです。

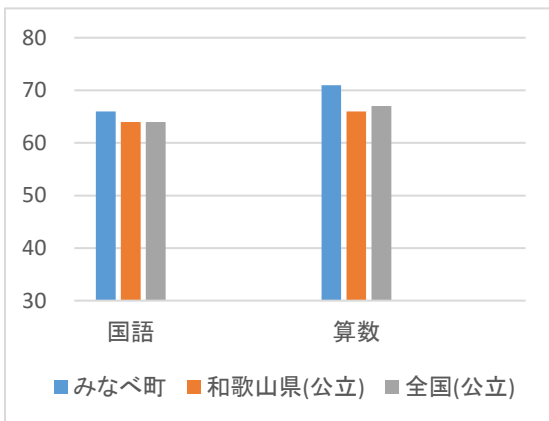
本教育委員会では、町内小中学校全体の調査結果の概要と今後の取組について広く町民の皆様にお知らせし、子どもたちの学力向上・学習環境の改善に向けて、学校・保護者・地域が一体となった取組を進めてまいります。ご理解ご協力をお願いいたします。

1 教科に関する調査結果について

(1)平均正答率(%)

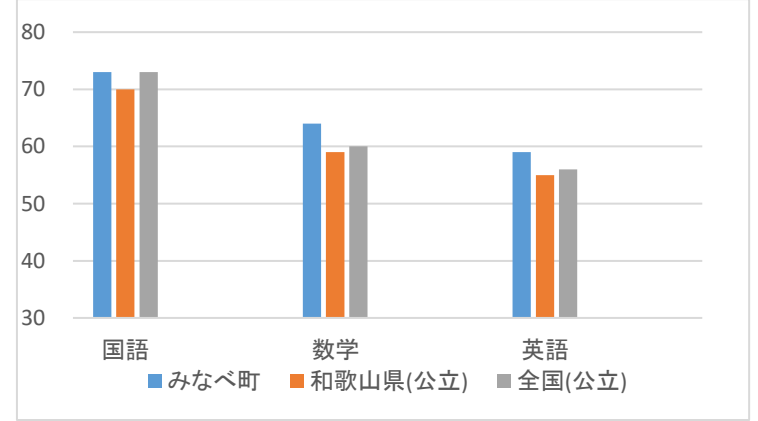
小学校 第6学年

	国語	算数
みなべ町	66	71
和歌山県(公立)	64	66
全国(公立)	64	67



中学校 第3学年

	国語	数学	英語
みなべ町	73	64	59
和歌山県(公立)	70	59	55
全国(公立)	73	60	56



今年度から、知識・活用を一体的に問う問題形式になったため、従来のA問題、B問題の区分がなくなりました。小学校平均正答率は、国語、算数ともが全国より高く、国語においては 2007年に本調査の開始以降、初めて全国の平均を上回りました。

また、中学校平均正答率においても、数学、英語について全国より高く、例年課題があった国語についても全国と同程度の結果となりました。英語は今回初調査で、正答率は「聞く・読む・書く」の内容のみで、「話すこと調査」は今回の結果報告に含まれていません。

(2)各教科の学習指導要領の領域別平均正答率

学年	小学校6年生	中学校3年生
教科	国語	国語
学習指導要領の領域		
話すこと・聞くこと	-	○
書くこと	○	-
読むこと	-	-
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 *1	○	▽
教科	算数	数学
学習指導要領の領域		
数と計算/数と式	◎	-
量と測定/図形	○	○
図形/関数	-	◎
数量関係/資料の活用	◎	○
教科		英語
学習指導要領の領域		
聞くこと		-
話すこと(参考値)		-
読むこと		○
書くこと		◎

国語
 小学校では、各領域において全国を上回り、特に書くことや国語の特質(*1)の領域では全国より4ポイント以上高く、書くことを大切に授業の成果が出ています。
 中学校では、話すこと・聞くことが4ポイント以上高く、国語の特質(*1)に課題がありました。

算数・数学
 小学校は、各領域において全国を上回り、特に数と計算、数量関係が全国より5ポイント以上高くなりました。
 中学校では、例年の傾向より、やや数と式で正答率が下がり、課題があった関数では7ポイント以上高い結果でした。

英語
 今年度中学校で初めて実施されましたが、各領域において全国を上回り、特に書くことにおいては全国より5ポイント以上高くなりました。活用できる英語を目指し、聞くこと・話すことの取り組みの強化が今後必要です。

※ 小学校の領域名/中学校の領域名

◎：全国平均に比べ5ポイント以上高い
 ▼：全国平均に比べ5ポイント以上低い
 -：全国平均との差が3ポイント未満

○：全国平均に比べ3～5ポイント高い
 ▽：全国平均に比べ3～5ポイント低い

(3)教科の概要

小学校

国語

- ◇目的に応じて、文章全体を概観して効果的に読むことがよくできています。
- ◆同音異義語の漢字の書き取りに課題があります。(問題:調査のたいしょう)
- ◆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がみられます。

算数

- ◇台形について理解することがよくできています。
- ◆示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がみられます。
- ◆示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題があります。

今後の取組について

- ・同音異義語の漢字について、意図的に問う機会を設け、適切に漢字が書けるよう取り組みます。
- ・計算の仕方だけでなく、各領域において学習した内容を活用して、解き方や考え方を記述出来るよう指導します。
- ・文章を正しく読み取り、目的や意図に応じた自分の考えを書けるよう機会を設け、思考力・表現力の育成に努めます。

中学校

国語

- ◇文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことはよくできています。
- ◇話し合いの話題や方向を捉えることがよくできています。
- ◆封筒の書き方を理解して書くことに課題があります。
- ◆文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がみられます。

数学

- ◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解がよくできています。
- ◇簡単な場合について、確率を求めることができています。
- ◆グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を事象に即して解釈することに課題があります。
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。

英語

- ◇語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができています。
- ◇日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができています。
- ◆与えられたテーマについて考えを整理し、文のつながりに注意して、まとまりのある文章を書くことに課題がみられます。
- ◆聞いて把握した内容について、会話が続いていくように即興で質問することに課題がかなりあります。

今後の取組について

- ・字形や文字の大きさ、配列などについて理解して書けるよう、手紙や通信文など具体的な場合において指導し、書写の能力を学習や生活に役立てられるようにしていきます。
- ・問題解決のために、表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実していきます。
- ・生徒が英語で会話をする、内容や場の設定を工夫し、情報や考えなどを即興で伝え合う指導を充実していきます。

2 質問紙の調査結果について

(全国と比べ特徴的な結果の出ている質問について紹介します。)

(1)「授業はよく分かりますか」

「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、中学校の国語以外は、小学校・中学校とも概ね全国より高くなっています。昨年度と比べると、小学校・中学校ともやや授業の達成意識は低くなりました。

よく分かる			みなべ町	全国	差異
	小学校	国語	88	85	3
		算数	95	84	11
よく分かる	中学校	国語	73	78	▲ 5
		数学	75	74	1
		英語	72	66	6

(単位: %)

(2)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

「している、どちらかといえばしている」を合わせると、小学校では昨年度より10%増加しましたが、中学校では昨年度より3%低くなりました。特に中学校で、主体的に家庭学習をする意識づけを、引き続き行います。

している			みなべ町	全国	差異
	小学校	83	72	11	
	中学校	37	50	▲ 13	

(単位: %)

(3)「平日授業以外でどのくらい勉強しますか／平日授業以外でどのくらい読書をしますか」

平日において、「1時間以上」勉強する児童・生徒は小学校は昨年度と同じで、中学校では昨年度より5%減少しました。平日「勉強しない」児童生徒は昨年度より小・中ともやや減っています。

平日の読書については、小学校では昨年度よりやや低くなりましたが、各学校での本の貸し出し冊数は年々増加傾向にはあります。中学校においては、小学生で高まった読書への興味が持続できるよう、蔵書の見直しなども進め生徒が本を身近に感じられる取り組みを進めていきます。

		小学校			中学校		
		みなべ町	全国	差異	みなべ町	全国	差異
平日の学習	時間						
	1時間以上	64	66	▲ 2	61	70	▲ 9
	1時間未満	36	32	4	36	26	10
	しない	0	2	2	4	4	0
平日の読書	30分以上	38	40	▲ 2	19	27	▲ 8
	10分未満	13	16	▲ 3	19	15	4
	しない	10	19	9	46	35	▲ 11

(単位: %)

(4)「外国の人と友達になったり、外国についてもっと知りたいと思いませんか／授業でもっとコンピューターなどのICTを活用したいと思いませんか。」

「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合わせると、小学校で全国より意欲的な意見が多くなっています。外国語やICT活用は、新学習指導要領で取り組みが進められる内容であり、各学校で指導法や教材の工夫に努めていきます。

		みなべ町	全国	差異
知っているか	小学校	77	69	8
	中学校	47	62	▲ 15
活用しているか	小学校	93	87	6
	中学校	77	78	▲ 1

(単位: %)

(5)「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか／将来の夢や目標を持っていますか」

「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合わせると、小学校では全国平均より高い状況ですが、中学校ではやや低くなりました。各学校で、児童生徒の自己肯定感・自己有用感が高まるよう取り組みが進められており、今後も地域や学校の特性に合わせ引き続き取り組んでいきます。

		みなべ町	全国	差異
挑戦しているか	小学校	86	79	7
	中学校	68	70	▲ 2
持っているか	小学校	86	84	2
	中学校	65	71	▲ 6

(単位: %)

みなべ町の学力状況は、今年度全教科において全国平均と同等、または高い正答率でした。

例年、国語力が本町の課題で、毎年少しずつ改善されてきた成果が小学校・中学校において結果として出ました。しかし、まだまだ学年によって学力のばらつきがあるため、今後も、基礎学力の充実と、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組みます。また、小中連携を深め、読書習慣の継続や、家庭学習の充実などについて、児童生徒や保護者の意識向上に努めていきます。

各校がコミュニティースクールとして、地域社会と協同した学習活動に取り組み、児童生徒たちが自分の良さや相手の良さを大切にするとともに、様々な場面で得た経験を生かし、将来なりたい自分の姿に向かって成長できる、一人ひとりが輝く学校づくりを進めてまいります。